

次世代につなげる森林づくり

R7.1.31 NO.54号



～南予森林アカデミー研修生 架線作業を学ぶ～

令和7年1月21日、愛媛県鬼北町の南予森林アカデミー研修生及び地域林政アドバイザー、研修関係者を対象に、「簡易な架線集材システムの設備及び操作演習」を実施しました。

研修生は、本格的な架線集材システムの現場視察や講義は初めてのため、最初に、架線作業システムの現状とその必要性、集材機の索張り方式等の基本的事項について講義を受けていただきました。その後、エンドレスタイラー方式（横取り架線方式の中でも横取り範囲が広く、運転操作が容易で架線の支間傾斜に関係なく使用できるほか、搬器を主索上の任意の位置に固定できるため荷下ろし等の作業が安全容易にできる）の架線設備を体験してもらいました。



開会式の様子



集材機操作の様子



集材作業の様子

今回、森林技術・支援センターにとっても実際に林内での架設研修は初めてであったことから、トラブルもあり完成までの時間も掛かり増しとなりましたが、そのおかげで、研修生にとっては、じっくりと各ワイヤーの配置状況等を確認することができたようでした。

索張りが完成した後は、いよいよ電動集材機を操作しての集材作業の体験です。研修生にとっては初めての体験でしたが、当センター職員の指導を受けながらでしたが、初めてとは思えないほど操作レバーを巧みに操り、無事に丸太を林内から荷下ろし場まで運び出し、集材作業を安全に終了することができました。

作業のあと研修生からは、「四国の山々は険しく、森林作業道の付けられない森林もあることから、これからも架線集材技術は必要になります。初めて見る索張りでしたが、架設から集材機の運転まで体験させてもらったことで、各ワイヤーの役割が理解できたし、架線システムの複雑さも実感できました。」等の感想が聞かれました。

また、安全な設備を行うための細かいルールがあることについても驚いている様子でした。

最後に、当センター所長から、「今後、皆さんが、架線作業に携わる機会がありましたら、今回の研修を思い出していただき参考にしてもらえれば幸いです」との挨拶で研修を終了しました。

今回、林内で実際に架設を行ったことで当センターにとっても、今後に向けたよい経験となり、現地での作業を通じて、様々な問題点等を把握することができ、今後の研修につなげるよい機会となりました。

森林技術・支援センターは、今後も様々な林業架線作業システムの技術継承の一助となるよう積極的に取り組んでまいります。

各種試験調査・見学のお問い合わせは

四国森林管理局 森林技術・支援センター

☎ 088-821-2250

e-mail shikoku_gijyutu@maff.go.jp

(セキュリティ対策で@を*に置き換えています)

